Engineer

ウェブサイト

共通の目的のためにまとめて公開する、関連するウェブページ群

どのようなものか

ウェブサイトは、共通の目的のために、所有者や組織がまとめて公開する、関連するウェブページの集まりです。企業のページ、通販サイト、文書群、個人ブログなどが当てはまります。多くの場合、ドメインまたはその一部、ナビゲーション、見た目、責任を負う人を共有します。普段は短く「サイト」と呼びます。英語ではsiteが短い呼び方で、2語に分けたweb siteは古い綴りです。

区別すると役立つのは、サイトとページです。WCAGはウェブページを、HTTPで単一のURIから取得する、埋め込まれていないリソースと、画像、スタイルシート、スクリプトなど、ユーザーエージェントが一緒に描画するすべてのものと定義しています。ウェブサイトに相当する用語は「ウェブページ一式」です。共通の目的を持ち、同じ著者、グループ、組織が作るページ群を指します。ドメイン名ではなく、目的と作成者に結び付ける点で、後者の定義のほうが実態をよく表しています。

定義に添えられた例を見ると、適用範囲の広さが分かります。商品のページで共通していたナビゲーションを取り除いた購入手続きは、それらの商品ページの集合には入りません。サブドメイン上のブログが独自のナビゲーションと著者を持つなら、主ドメインのページとは別の集合です。同じページの別言語版も、別の集合として数えます。したがって、3つのドメインで1つのウェブサイトを構成することも、1つのドメインに複数のサイトが存在することもあります。

ウェブサイトと混同しやすい近い概念が3つあります。_ウェブサーバー_は、リクエストに応答するプログラムです。1つのサーバーで数十のサイトを扱うことも、大きな1サイトを多くのサーバーに分けることもできます。_ドメイン_はアドレス内の名前で、サイトがほかと共有する場合も、1サイトが複数のドメインにまたがる場合もあります。_ウェブアプリケーション_は、ウェブを通してソフトウェアを提供するサイトです。処理はブラウザー、サーバー、その両方のいず

れでも行われます。WCAG自身の例は、1つのアドレスにありながら、受信トレイ、連絡先、カレンダーを表示するウェブメールです。1つのURIでも、多くのページのように感じられます。

ページを作る時点も、サイトによって異なります。_静的_サイトは、前もってファイルを生成し、サーバーがそのまま渡します。_動的_サイトは、通常、データベースとサーバー上のプログラムを使い、要求のたびにページを組み立てます。読者がページだけを見て両者を見分けられることは、あまりありません。違いが出るのは、動かし続ける必要があるものです。

概念を判断に生かす

「ウェブサイトとは？」を実際の判断に生かしましょう。その概念を、開発または購入するシステムに結び付けて考えるお手伝いをします。 表示が速く、検索で見つけやすく、文章を変えるたびに料金が発生せず、自社の担当者が編集できるサイトをつくります。

サービスを見る お問い合わせ →

用語の背後にある前提を検証する

解説とリンク先の実績を参考に、プロジェクトについての質問を整理してください。ツールを選ぶ前に、前提を一緒に検討できます。 HTML/HTML5でWebアプリケーション100個を開発 — 100 構築したWebアプリケーション

HTML/HTML5でWebアプリケーション100個を開発 お問い合わせ →

なぜ重要なのか

人が評価するのは、個々のページではなくサイトです。検索結果から1つの記事に来た読者は、メニュー、周囲のページ、連絡先を見て、信頼できるかを判断します。放置されたように見えるサイトでは、良いページまで放置されているように見えます。

検索エンジンはサイト全体を読む。 ページは1つずつ索引に登録しますが、サイトのリンク、構造、公開されたアドレス一覧を通じて、それらを見つけます。サイトがその一覧をクローラーに渡すためのsitemapsプロトコルでは、1ファイルに最大50,000アドレス、非圧縮で50MBまでを認めています。大きいサイトは一覧を複数のファイルに分け、インデックスにまとめます。

ページ間でしか成立しないアクセシビリティ要件もある。 WCAG 2.2のレベルAAの達成基準のうち3つは、ウェブページ一式について書かれています。「複数の手段」（2.4.5）は、購入手続きなど、プロセスの結果や一段階であるページを除き、各ページへの経路を複数用意するよう求めます。メニューと検索でも、目次と関連ページ間のリンクでも構いません。「一貫したナビゲーション」（3.2.3）は、複数ページで繰り返すナビゲーションの相対的な順序を、利用者が変更しな

い限り、毎回同じにするよう求めます。「一貫した識別性」（3.2.4）は、同じ働きの部品を一貫して識別できるよう求めます。個々のページの検査にはすべて通っても、サイト全体では3つとも満たさないことがあります。

アドレスは約束になる。 公開した各アドレスは、ブックマーク、他人のリンク、検索索引、メール、印刷物に残ります。サイトのアドレス一覧は、外部の人が頼りにする部分で、どのデザインより長く使われます。

何かを動かし続ける必要がある。 動的サイトは、背後にデータベースを持つプログラムであり、修正、監視、毎月の支払いが必要です。静的サイトは、ファイル群と、それを渡すサーバーです。攻撃対象となる範囲と運用費用は、見た目の設計よりも、この選択で大きく決まります。

実際の活用例

このウェブサイトは、上の定義を具体的に示す例です。Hugoによる多言語の静的サイトとして構築し、記録にある2026年8月の実装段階では、108のテンプレートファイルを持っていました。そのうち53が部分テンプレート、18がショートコードで、実行時のバックエンドを持たず、1つのコンテンツツリーから3言語を生成していました。各ページはHTML、対応するMarkdown文書、Gemini文書、Gopherメニュー項目という4つの表現で公開していました。同じツリーをさらに7回、特定分野向けのサブドメインごとに、異なるコンテンツディレクトリーを指定してビルドしました。アドレスで数えれば8サイトですが、言語ごとに別のウェブページ一式とするWCAGの数え方では、3言語だけで3つです。実績ページは、実行時のバックエンドを持たない代償も明示しています。実績フィルターのために範囲を限定したJavaScriptによる機能追加を1つだけ認め、それ以外の操作はビルド時に解決するか、実装を見送りました。検索索引も、そのために費用を見積もったうえで保留しました。

以前の業務は、サイト運営と、デザインからの構築という、仕事の別の2面を示しています。ホスティングでは、Ubuntu Linuxのホスティングサーバーで40サイトをApacheとNginxの組み合わせで運用し、設定、性能調整、保守によって、高い可用性と速度を維持しました。基準となるのは、実際のアクセスがある状態での動作でした。誰も来ない夜にしか安定しないサイトは、管理されているのではなく、放っておかれているだけだからです。

構築では、Photoshopファイルのデザインを基にした30サイトを手作業でHTMLに変換し、2つの基準を同時に満たすようにしました。デザイナーが意図した間隔、書体、細部に忠実であることと、内容が変わっても保守できることです。見

本と完全に一致していても、最初の編集で壊れるサイトは、公開する日のためには作られていても、その後の年月のためには作られていません。

問題が起きるところ

- **リニューアルでアドレスが変わる。** 新サイトを公開した日から、古い構造を指していた外部リンク、ブックマーク、検索結果がすべてエラーページに行き着きます。古い各アドレスから新しい行き先への恒久リダイレクトを何年も保つことで、他人がそれを使って作ったものを守れます。
- **セクションごとにナビゲーションがずれる。** 異なる時期に書いたテンプレートが、それぞれ別の順序のメニューを持つようになり、同じページを、ある場所では「お問い合わせ」、別の場所では「ご連絡」と呼ぶようになります。読者は位置を見失い、各ページが単独の検査に通っても、サイトは「一貫したナビゲーション」と「一貫した識別性」を満たしません。どこでも同じナビゲーションテンプレートを共有すれば、ずれの原因を取り除けます。
- **公開時に完成したものとして扱う。** 内容は古くなり、依存先も古くなり、証明書は期限切れになり、公開方法を知る唯一の担当者は去ります。責任者、公開手順、誰かが覚えているかどうかにかかわらず動く検査があれば、サイトは長く使えます。
- **ページにたどり着く経路が1つしかない。** メニューを3段たどった先に埋もれ、どの索引にも載っていないページを見つけられるのは、著者とごく少数の人だけです。検索、サイトマップ、関連ページからのリンクなど、2つ目の経路を用意することが、プロセス外のページに「複数の手段」が求めることであり、読者も必要とするものです。
- **公開後に第2言語を付け足す。** アドレス、日付、数値の形式、文字列の長さ、メニューをすべて1言語に合わせて作っていると、追加言語がすべてのテンプレートで無理を強いられます。多言語にする予定のサイトは、最初のページからそのように作るほうが安く済みます。

参考資料

- NIST CSRC用語集: website — NISTIR 7693による1行の定義。単一の目的を支える集まりとして準備、保守する、関連するウェブページ群。
- WCAG 2.2: ウェブページ一式 — 目的と作成者でサイトを定義し、購入手続き、サブドメイン、言語版の例を示しています。
- 達成基準3.2.3「一貫したナビゲーション」の解説 — 複数ページで繰り返すナビゲーションの順序を保つ理由と、それを損なう失敗。
- 達成基準2.4.5「複数の手段」の解説 — サイトが各ページへの経路として用意できるものと、プロセス内の段階を除外する規定。
- sitemaps.org: サイトマップのXML形式 — サイトが検索エンジンに自身のアドレスを一覧で渡す形式と、ファイルごとのサイズ上限。

- W3C: モバイルウェブアプリケーションのベストプラクティス、ウェブアプリケーション — ブラウザー内だけの実行を求めず、サーバー側またはクライアント側で処理するアプリケーションも、勧告の対象に含めています。

用語集

実際の制約に合わせて選ぶ

業務の流れ、既存のインターフェース、変更を必要とする利用者をお知らせください。検証可能な納品内容と、お客様のチームが保守を続けられる引き継ぎ内容を定められます。

料金を見る お問い合わせ →

用語を実務に結び付ける

「ウェブサイトとは？」がお客様の組織にどう当てはまるかをご相談ください。現在のシステムの具体例が一つあれば、話を始められます。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く 連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/glossary/website/